

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200373		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム清水三保の家（1号館）		
所在地	静岡県静岡市清水区三保350番地の74		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の言動は相手の職員によって真逆の内容になることもあり、対応している全職員の反応の情報を集め、利用者の裏腹な思いや本音を探り、より理解を深めていけるよう取り組んでいます。

職員それぞれの個性を生かして利用者との関係を築き、お互いの距離を見極めながら人間と人間との関わりを持ちながら信頼関係につながるよう心掛けています。

利用者の生活改善のためのケアは、基本を統一したうえで、個々の職員が様々な角度から本人を見据えサポートしていけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸近くの閑静な住宅地に事業所があります。プランターの花々が風にそよいで出迎えてくれ、職員の日々の気働きが感じられます。運営推進会議を職員が担当制で運営したり、20名中10名の職員が介護福祉士の資格を有するなど、開設から9年を経て着実に職員を育ててきたことが窺えます。地道な努力は地域にも向けられています。利用者との散歩を通じて培ったつながりや清掃等自治会活動の積み上げは、「避難場所になって欲しい」と地域から申し込まれる形で本年実っています。朗らかでオープンな管理者の下、意欲の高い職員が「ゆったりとした生活」に向け尽力していることが一つひとつの取り組みから受けとめられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の「家」であることを踏まえ、地域との関わり合いの機会を提供し、本人の要望や意思を尊重し、本人なりのペースで暮らせるよう、ある程度距離を保つことを心掛け取り組んでいる。	新人職員には地域密着型の特徴とともに理念を説明するようにしています。「実際の家ではありませんが、あたかも家庭であるかのようにとの観点で支援しています」との管理者の言葉通り、利用者に自然に寄り添う職員の姿を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩で近隣の方の挨拶を積極的に行い、地域のお祭りに利用者と共に参加している。自治会に入り、地区の防災訓練、清掃に参加している。運営推進会議に民生委員、包括支援センターに参加いただき情報交換をしている。	3階建てであることから「津波の際にはぜひ避難場所に…」との声も挙がっていて、毎日の散歩から始まった近所づきあいが実りつつあります。中学生の福祉体験の受入も今年から始まりました。ボランティアの訪問も定着し、利用者にも好評です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩中で近隣の方に声を掛けられ、認知症の利用者について尋ねられれば、認知症は病気であるが、施設で支援することで安心して暮らせることを説明し、少しでも疑問や偏見の解消につながるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で近況報告や取り組みを報告し、出席された家族、民生委員、包括支援センターからの意見や要望を出していただき話し合っている。その後、事業所内で話し合いサービス向上、改善に向け取り組んでいる。	運営推進会議は年度計画を立てる中で担当職員を決めており、進行役と書記の2名で隔月運営しています。各職員が分担することで、参加者の顔ぶれや内容に彩があり、充実しています。また、包括職員にも毎回参加してもらい、地域連携に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が多く、区的生活支援課の担当職員の訪問があり、利用者の様子を詳しく伝えている。	地域包括支援センターの声がけに応じ、小学校の福祉教育に参加し、事業所として貴重な体験となっています。包括ではホームページに空き室状況などをアップしていて、何かと事業所に役立つよう支援してくれています。また、市主催の研修会にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部から年に2回高齢者虐待防止についての講義を受け、身体拘束について学んでいる。外部講座に職員が施設を代表して毎年参加し、職員会議で講座内容を伝え、全職員が意識を改めて取り組んでいる。職員が2人以上配置されていれば玄関は開錠している。	不穏な様子があると閉めることもあります。が、9時～4時を開錠と決めています。外部研修に参加するほか内部研修もあり、また朝礼で毎回繰り返し大切なことを読み上げていて、意識の継続を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部から年に2回高齢者虐待防止についての講義を受け学んでいる。職員同士がケアや対応方法を冷静に見て、感じたことを素直に話し、見直すきっかけとなるよう心掛けている。必要に応じリーダーより個別に指導している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、リーダーは理解できているが、一般職員の理解は浅く十分ではない。 入居時や本人の環境が変わる時に、家族関係や協力体制を踏まえ、本人が安心して暮らせるよう制度の活用を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類による手続きの場合、本人の理解力と不安への影響を考慮し、簡単な説明にとどめ、家族への説明に重点を置く場合が多いが、本人と家族に質問やわからない点がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に意見や要望について発言を求めたり、玄関に意見箱を設置している。 本人が家族に発言した内容をなるべく教えていただけるよう家族に協力を求めたり、介護相談員から本人の発言内容を提供いただき、改善に取り組んでいる。	「三保だより」と名付けた運営推進会議の議事録縮小版を作成し、参加されなかった家族に届けています。ユニット毎のリーダーが面会や電話でのコミュニケーションを密にとり、家族意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、参加している全員が発言できる時間を用意している。 事業所から本部へ内容を発信できる。	朗らかでオープンな管理者の下、ベテラン職員の意欲の高さに若い職員が刺激され、一つにまとまっていることが受けとめられました。管理者は傾聴を心掛けていて、迷う職員にはゴール(目標)は何かをあらためて考えてもらえるよう支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当があり、給与に反映されている。 グループ内での新規立ち上げ施設への異動の条件を公表し、ステップアップの機会を提供し募っている。 資格取得について社内報で公表している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後、必須の受講課程と年に2回の社内課程を実施している。 外部の講座の案内を職員に回覧し、希望者は受講できるよう情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の同地区のグループホームと協力し合い、利用者と共に訪問しあったり、公用車や車椅子の貸し借りを行っている。 地域包括支援センターの情報交換会や勉強会に参加している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後まもなくは本人に寄り添い、全職員が対話の機会を持つよう心掛け、本人の要望や不安の変化を把握する為、本人の発言や様子の収集を強化し改善に取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯を把握し、家族の立場から直面している問題を受け止め、背景にある事情も含め家族の思いを尋ね理解に努めている。 本人の様子や思い、変化を家族に伝え関係の改善にも配慮し取り組んでいる。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の暮らしの様子を本人と家族、入居前の担当ケアマネ等から情報を集め、今必要としている支援の優先度と提供するタイミングを検討したうえで実施している。 最優先のサービスを実施後、更なる改善に向け他サービス利用の必要度、タイミングを再検討している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の以前の暮らしの様子踏まえ、本人の要望を聞きながら、できる範囲の家事に参加していただいている。 また職員と一緒にすることで寄り添い、本人の思いを何でも話せるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子や本人の発言を報告し、本人の思いを伝え関係が疎遠にならないよう努めています。 本人、家族の要望を踏まえ、家族にできる限りの協力を依頼し関わりの機会を提供できるよう取り組んでいます。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩中、近隣の知人に会い本人がわからない時は職員が説明し名前を尋ね、家族の協力を得ながら本人が理解できるよう支援している。 また施設に訪問いただけるようお願いしたり、以前暮らしていた場所に訪れる機会をできる限り提供している。	毎朝の散歩では顔なじみの人もでき、清廉な空気とともに会話を楽しんでいます。全館通じて本を読むことを続けている利用者もいて、各フロアの本を時折交換しています。また、自立の利用者が多い1号館では、それぞれが居室で編み物や書道等在宅時の趣味を継続しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	計算ドリル、体操を毎日実施し、参加は本人の意思に任せています。わからない問題を利用者同士が聞いたり、体操を行った後、お茶を飲みながら談話の機会を提供している。 利用者同士の関係を踏まえ見守り、職員が間に入り配慮している。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	別施設や病院に移った後でも、できる限り訪問の機会をつくるよう努めている。 退居時に今後もできる限り協力をさせていた だきたいと本人と家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動の言動から要望や意思を推測したうえで、直接本人に尋ね確認している。 周辺の出来事を把握して影響を推測し、はっきり言えないことや、うらはらな気持ちをさらに推測し本人の思いにできる限り沿えるよう取り組んでいる。	介護相談員とは外出時の思い出を話したり、親しい関係を構築しつつあり、相談員を通じて本音を聞く場合もあります。管理者はじめ職員も聴くことが大切と考えていて、普段の会話の中から新たな意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりを書類だけでなく、本人、家族、担当ケアマネ等に直接尋ね、今後も継続していきたい事、継続できなくなってしまった事と理由、施設に入ることになった経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックと本人の言動から心身状態の把握に努め、散歩、計算ドリル、体操の決まったスケジュール以外は本人が興味のあることをして過ごせるよう促し、少し距離を置いて見守り、時々声を掛け本人の思いを話せる機会をつくり取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を受け入れた暮らしの中で、生活用品等の自己管理に不具合が発生し、支援が必要となった時は本人、家族それぞれの立場に配慮したうえで相談し、支援方法を提案し、介護計画を作成し段階を踏んで試行しながら見直している。	担当制を設けていますが、全員の意見を取り入れるようにしています。3ヶ月に1回モニタリングし、1号館では自立した利用者に向け、予防プログラムとして漢字や計算ドリルなどに取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発言内容は聞く側の職員によっても違うことから、いろんな角度から本人の思いや本音を探ることができるよう記録を残し、職員間で発言内容を共有し本心の把握に努めるよう話し合い、ケア方法について見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が高齢等で本人の支援のための手続きやサポートが大きな負担となっている場合、家族との関係を保護したうえで、できる限り施設側が動き支援している。 訪問マッサージのサービスを取り入れ、医療以外の分野から痛みを緩和できるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員から以前の様子を聞いたり、施設に面会に来ていただき不安解消の為の協力を得ている。 毎日近所の公園へ散歩に行ったり、地域の祭りに参加し、すれ違う近隣の方々と挨拶や会話ができるよう職員が率先して促し交流の機会を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尋ね、以前のかかりつけ医と相談し、通院の負担も踏まえ入居後のかかりつけ医を決め、必要に応じ専門医の受診支援も行っている。できる限り家族の付き添いを依頼し、職員のみが付き添った場合は家族に報告をしている。	近所で開業している協力医には心身の状態を2週間に1回報告し、また受診の際にも今後のケアについて相談し、アドバイスをしています。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしています。職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や普段と違う様子を個人ファイルに詳細を記録し、訪問看護師に伝えている。 看護師から病気や症状の原因、注意事項の資料提供があり情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の協力状況に応じ必要物品の補充、洗濯物の支援、面会に行き精神面のサポートに取り組んでいる。病院には入院前の様子を伝え、退院の条件や身体的回復の目標をはっきりさせ、リハビリ開始のタイミングを見極めていただけるよう積極的に接触を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設で医療行為ができないこと、必要になった場合は入居の継続ができないことを説明し、同グループ内の施設案内をしている。 延命措置等、本人、家族の意思を尊重し、かかりつけ医に相談しながら取り組んでいる。	契約時に事業所で取り組めること、できないことを説明しています。これまでも、重篤化した場合は医療機関や家族と協議しています。看取りの書面化は未だありませんが、緊急時の対応マニュアルや医療連携レベルの書面は整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期だが、講師を招き救急蘇生法を全員が繰り返し学んでいる。また緊急時の対応マニュアルを作り、慌てないように準備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を日中、夜間、火災、津波、それぞれの想定で実施している。 地域で津波避難訓練が実施される時は、施設内で津波避難訓練を実施している。 また地域の防災訓練にも参加している。	利用者也参加する津波想定内部訓練のほか、自治会の防災訓練にも参加しています。地域からの事業所訓練への参加は叶っていませんが、近所からは「避難場所に…」との声をもらえています。リスクマネジメントの観点から、グループ内の事業所間で備蓄を分散しています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失禁等があった時は自尊心を傷つけないよう配慮し、他利用者に影響が及ばないようにプライバシーを守り、さりげなくすみやかに交換できるように心掛けています。 わからないことがあった時は個人を尊重し、丁寧に返答するようにしています。	法人本部から送られてくる「接遇」や「倫理遵守」の資料を朝礼で読み合わせるとともに、読んだら押印することになっていて、周知徹底が図られています。利用者ごとに性格が違う事を留意して接するよう、管理者からも常に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話の中から食事メニューの希望を聞き、なるべく取り入れるようにしています。 毎日の散歩のコースや歩行距離、計算ドリル、体操は本人の意思で参加を決めるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分で興味のある事や、やりたい事（読書・手芸・学習）が自分のペースでできるよう見守り、その為に居室やホールの環境を整えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握し、外出する前に外気温や風の様子を伝え衣類の判断を促し、必要に応じ職員が提案し支援している。 化粧水やクリーム等、利用者の希望に合った物を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳、下膳を本人の力に応じてやっていただいている。 食前食後のテーブル拭き、食器・トレイ拭き、もやしのヒゲ取り等、本人の意欲を確認しながら参加していただいている。	日頃から希望を聞くようにしているとともに嗜好調査もおこない、好みの食事を提供しています。1号館はパンが好きな利用者が多いのでパン食も頻繁にあります。誕生会には手作りおやつも提供していて、写真掲示でも利用者の満面の笑顔を確認しました。	嗜好調査の場合、多数決の傾向になりがちです。個々の要望を具体的に調整する方法についてご一考願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患により油物、塩分を控えたり、量を調整したり、それぞれに合った食事量とし、体質により食材の制限のある方には、必要に応じ別メニューを提供している。本人の希望により居室にお茶を入れた水筒を持参できるよう支援し、夏季は散歩後、入浴後に麦茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔ケアや入れ歯の手入れの状況を把握し、声掛けが必要な利用者には、毎食後歯磨きの声掛けをしています。 ハブラシの衛生状況を確認し、必要に応じ交換、保管状況の改善指導を行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄サイクル、睡眠パターンの把握に努め、タイミングを図りトイレの声掛けをして失禁回数を減らせるよう取り組んでいる。 できるだけ排泄に伴う動作は自立支援を心掛け、状況に応じ速やかな支援をしている。	自立している利用者であっても声掛け程度はし、生活リズムが乱れないよう配慮しています。トイレで排泄してもらうことを旨としていて、昼間はパットとリハパン対応ですが、タイミングのよい誘導により失禁はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操などで身体を動かす機会をつくり、お茶の時間は好みに応じた飲み物を提供し、水分の摂取量を把握し栄養バランスのよい食事の提供を心掛けている。 排便サイクルの把握に努め、職員間で常に意識を持ち便秘改善薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する入浴頻度とし、タイミングを図り声掛けを行っている。 一番に入りたい方が複数いることから、男性、女性の順番を曜日によって変えている。	1号館と3号館は週2日休みの日を設定していて、週5日間を入浴日としています。散歩後に提供している午後の入浴は利用者の楽しみのひとつです。ゆず湯など季節のかわり湯もおこなっています。	今後毎日入浴したい希望がでた場合、どのように対応するのか、実現にむけた検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休みたい時は室温の調整を行っている。 TVやラジオ、電気をつけたまま入眠していたら、職員が電源を切り、継続して安眠できるよう支援している。 本人からの要望に応じ布団を干したり、シーツが汚れた時以外にも定期的に洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局が発行した服用薬の効果と副作用の説明書類を個人ファイルに最新の物が綴じてある。 状態により調整が必要な薬については全職員が声を掛け合い取り組んでいる。低血糖時に備えブドウ糖を常備したり、疑わしき症状があれば観察を強化し情報収集に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の役割を持っていただき、体調や気分に応じて配慮したうえで本人の意思で参加できるよう支援している。 本人が希望する嗜好品(コーヒー・黒砂糖・お菓子)を家族とも相談し、支障のない範囲で提供の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	雨天以外は毎日散歩を実施しており、途中の休憩を含み30分以上の外気浴を目標にしています。 お祭りや行楽行事は利用者の希望を取り入れ、家族にも協力を依頼している。 本人の思いを家族に伝え、家族と外出できるよう支援している。	毎朝公園に出掛けていて、単に歩くだけでなく、会話をもった散歩を心掛けています。ドライブを兼ねた外出は、自動車の台数がないためピストンとなり難儀がありますが、それでも年2回おこなっています。1階は回転ずし等の外食にも出掛けています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の要望を理解し、希望者は少額の現金を持っている。 外出した際、家族の要望で上限金額を設定し範囲内で本人が欲しい物を自分で選び買物できるよう支援しているが、本人が持っている現金で買物することはなく、支払は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば電話で家族との交流が持てるよう支援している。 本人宛てにきた郵便物を渡し、手紙やはがきの投函を頼まれれば快く応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室はシンプルに表示し、室温計をホール、居室に配置している。 シンプルで見やすい日めくりを掲示し、ホールは季節に合わせたディスプレイに変えている。 行事の時の写真に日付とコメントを入れ、ホールに展示し、いつでもみれるようにしてある。	1号館では自立の利用者が多いためか、入浴の休みの曜日や食事の時間など、お知らせが掲示してあることが特徴のひとつです。 共用空間には外出時の写真掲示や書籍・新聞があり、在宅時からの生活が続いていることが視認されました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは思い思いの場所でテレビや読書を楽しみ、利用者同士で話ができるよう、ある程度距離を置いての見守りを心掛けている。 必要に応じ、室温や照明にも配慮し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり、本人と家族に本人に使い慣れたコップやはし、日用品や家具を持参していただけることとそれが安心感につながることを説明し、協力を依頼している。 入居後は安全面に問題がないか確認をしている。	1号館では書斎机や温冷蔵庫が持ち込まれ、自宅と見間違えような居室もあります。居室の掃除は職員がおこなっていますが、手伝える利用者は一緒に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に洗面台があり、整容、口腔ケアをいつでも自発的に実施できる。居室、ホール、廊下には手すりがあり、歩行が安定しない方でも歩行訓練ができる。 夜間は居室内のセンサーにて動きの把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容